



Newsletter No.79 2012.3.24

ronniandpopoki(at)gmail.com

<http://popoki.cruisejapan.com>

春！お花と新緑の季節。ポーポキと一緒に大きく息を吸って、心も春にしましょう！

Popoki's Hot News!



ご協力、ありがとうございました！

「ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅」(エピック 2012)は只今発売中です！

被災地などで展開している「ポーポキ友情物語プロジェクト」の記録です。売上の一部は被災地へおくる予定です。カラー・64頁・A5判・バイリンガル日英・1500円(税込)国内の本屋さん・amazon.co.jp, 出版社 エピック、ポーポキ・ピース・プロジェクトなどで入手できます。

先日は神戸栄光教会で販売し、41冊も売れました。みなさん、ありがとうございました！

新本が新聞で紹介されました！ 下記のサイトへどうぞ。

<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html>

←神戸YMCAでも販売していますよ！



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちで神戸YMCAでご活躍中の頼子ちゃんから、届いた平和：

～20の国の地域のYMCAのメンバーが集まる会で見つけた平和なひと時～

「輪になってギターの音色に耳を傾けながら目があって微笑む時。率直に意見を出し合い緊張した空気の中、気のきいた一言で思わず笑ってしまう時。Let's pray と言って静かに頭を下げる時。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。ポーポキのメール [ronniandpopoki\(at\)gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com)！

この春は、いろいろな活動を開催する予定。
ぜひ参加してくださいね！

<http://popoki.cruisejapan.com>
[ronniandpopoki\(at\)gmail\(dot\)com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail(dot)com)



ポーポキの会「いのちを考える」に参加して

清水 忠

*このポー会には「五感を通じていのちを感じるもの」を持参することになっていた。グループは日本語だけ・英語だけ・日本語＆英語に分かれたが、各グループに日本人も外国人もいた。

東日本大震災から約一年を迎えた 3 月 10 日(土)、さとこさんに誘われ、ポーポキの会「いのちを考える」に参加しました。

グループ分けで、世界の各国から日本に留学されている方々と一緒に「日本語＆英語グループ」に入りました。

最初のグループワークでは「生きる・生きている・生まれるの意味」について 20 分程度グループで意見交換をしました。我々のグループでは意見をまとめるどころまで出来ませんでした。グループの仲間とのやりとりで「生きる・生きている」という言葉でも、私にはないとらえ方を知る楽しさと私の感覚を伝えられない難しさを感じました。

休憩後の 2 つ目のグループワークでは、まず、グループの仲間が「いのちを感じるもの」として持ってきたものにまつわる話を聞きました。自分が子供のころに「いのち」を感じたおばあさんを想起するもの、今も自分の支えになっている仲間の写真、自分の次の世代となるお嬢さんの写真などが机に並べられ、その作品を見て、「いのち」は「過去⇒現在⇒未来へと続いていくもの」であるなど感じていました。ただ、私の英語での説明では皆さんには伝えられなかったようで…日本語グループの体で表現された「いのち」は過去⇒現在⇒未来へとつながっていく」には一本取られました。



最後に、今回のポーポキの会「いのちを考える」に参加して、改めて、「いのち」はひとそれぞれに想いが込められているものだと感じました。今後も機会があれば、ポーポキの会に参加したいと思います。

3.11 希望の凧上げ (神戸・須磨海岸)



3.11 に全国的にいろいろなイベントが開催されました。ポーポキは YMCA が企画したイベントに参加しました。いろいろな YMCA で希望を凧に託して、高くあげました。

お天気があまりよくなくて、凧は見えにくい。でも、実際にたくさんの方が参加して、希望いっぱいのイベントでした。



ポーポキと一緒に「藤井寺支援学校」にお邪魔しました

suzanka

今回はポーポキと私は大阪の藤井寺市にある「大阪府立藤井寺支援学校」にお邪魔しました。う～あ～～楽しかったです!!たくさんの元気いっぱいの子どもたちそしてとても親切な先生たちに迎えていただいて、素敵な時間を過ごすことが出来ました。

藤井寺支援学校では普段私は「英語で遊ぼう」という授業をしますが今回はその時間を利用してポーポキ友情物語タイムをさせてもらいました。

レッスンの初めはポーポキの紹介そして子どもたち一人一人にネコ挨拶に行きました。手と手を繋ぐと温かい笑顔をもらいましたね。

その後、もちろんポガの時間で～す。特に尻尾を動かして～「右、左、上、下」身体をきちんと伸ばしま～す。



そして、いい気分になったところで、一年を迎えた東日本大震災を思い出したり、考えたり、感じたりしました。地震、津波ってこわいな～怖い、悲しい時って大切な人が側にいれ

ば、励ましてくれたり、支えてくれたりすると少しでも元気になれると皆で共感しました。今回のミッションは被災地の大人や子どもたち、生き物たちに「元気を届ける、私の幸せを共有する」ということでした。

子どもたちの前でポーポキの布を開くと、すぐに1番好きな色のペン



を持って描き始めます。そして、20分ほどの時間が経つと若者アーティストの素敵な作品がいっぱい出来ています！



どういう物を描きましたかと聞いていくと「私は通天閣を描きました。大阪の通天閣が大好きですから…」、「私はたこ焼きを描いた。たこ焼きを食べると幸せな気分になるからね。東北の子どもたちにもたこ焼きを届けたい〜」、「僕は好きなキャラクターのスーパーマリオを自分で描いた。絵を見ると元気になります」等とにかく大好きな

物、嬉しくなること、幸せな気持ち、元気いっぱいを被災地の友達に届けたいです。

時間が迫ってきたところで、最後にポーポキに一つお願い…「今回は二つのクラスしか参加することが出来なくて、他にも描きた



い学校の友達や、先生たちとお母さんたちがいると思いますので、しばらくこの布を預かってもいいですか？」～そして、一ヶ月ほど学校の玄関でポーポキ友情物語のエキジビションという場所が出来ました。

ご協力ありがとうございます～！

ポーポキ友情物語を通じて大阪府立藤井寺支援学校の子どもたち、先生たちはとツナグことが出来ました～これからもポーポキと仲良くしてくださいね☆



今回の訪問は梅の花のような「暖かいピンク」そしてお昼の太陽のような「元気な赤」という感じでしたね。



ポーポキの被災地支援インタビュー その9

今回は、名古屋でポートワイズメンズクラブに所属している鈴木一弘さんにお話を伺いました。鈴木さんは、昨年秋、設立された関西・震災支援ネットワークで、被災地支援を行っています。これまでも、岩手県、福島県、宮城県に計4回訪問されているほか、愛知県に非難された県外避難者の方々を対象とした活動もされています。

今回は、活動の紹介とともに、1年経過した現地の状況を伺いました。
以下、鈴木さん(S)と質問者(恭子:K)とします。

K: 関西・震災支援ネットワークでは、どのような活動をされているのでしょうか？活動の紹介をお願いします。

S: 活動場所によって、一緒に活動するメンバーはかわります。例えば、4月に入った釜石では、僧侶や牧師らによる心の支援班、YMCA や教会メンバーらで清掃ボランティア班を編成し、活動しました。関西・震災支援援助者ネットワークでは、南相馬市などに、兵庫県の臨床心理士、言語聴覚士とともに子どもの遊び場やしあべり場の提供、母親らの自助グループの育成などを目的に、現地の母親グループらと連携しました。そのグループの一つに、昨年11月に神戸YMCAで、津波・原発事故の報告をされた南相馬市の小学校教諭岡田光生氏が主催するものでした。

また、愛知県では、県外被災者支援として、避難者同士の交流の場に協力し、子どもの託児ボランティアを担当しています。託児ボランティアには、高校生、大学生が多く関わってくれています。

K: 活動内容も幅広く、関わっておられ方も多様な方が参加されているんですね。

K: 1年をかけて活動をされていますが、時間経過的に現地の雰囲気など、どのような変化がありますか？

S: 安易に「復興」との言葉は使いたくないけれど、岩手県や宮城県では、ある程度官民協働で進みつつあるが、福島県は、原発の問題もあり、復興に向けた気持ちや計画が「まとまっていない、一つになるところまで進んでいない」ところがあります。

K: 現地だからこそわかる、五感で感じた「発見」はありますか？

S: 現地の人、県外避難者の方の言葉一つひとつが胸につきさります。

大河原町(宮城県)「安全な食べ物と思い、有機農家を始めたが、安全に自信がないから売れない」福島市の健康相談会の後で医師が「子どもに微熱、鼻血、頭痛などの現象が増えている。母親に問われても、これは放射能の影響だとも言えるし、そうでない(花粉症のようなアレルギー現象)とも言える。科学的には断定できない、のが辛い」。

県外避難者からは「知らない土地なので、母子ともにひきこもりがちになってしまった」「集合住宅に入居したが、子どもが歩くだけで、階下の人がある。夫も我慢しなさいとしか言わない。クレームが怖いので、朝ごはんを食べると、子どもを連れて、外に出て、一日時間を公園とかでつぶして夕方家に帰る」など。

K: 現地に何度か行かれていますが、現地になぜ行きたいと思うのですか？

S: 月並みですが、「支援」に赴くつもりで現地に向かったのに、逆に「励まされた気持ちになって」帰ってくるからでしょう。

後は地元の食事を楽しむこと、例えば東京資本の居酒屋に行かず、現地の人が経営するお店で飲み食いすれば、それだけで何らかの支援になるのだと。

また、現地のニーズや人々の考え方は、現地に行って、一瞬一瞬の「つぶやき」に耳をすまさない、「学べない」「教えてくれない」「(本音は)分らない」ものだと思います。その意味で、「自分(ボランティアとしての私)ができること」は、現地に入っこそ、人の中に入っこそ、「見える」「感じる」ものかな、と思います。

K: 鈴木さんご自身が思う、現地が抱えている課題はなんだと思いますか？

S: 「被災地」「被災者」の抱える問題は、時間の経過によって、さらに「個別化」し、「深化」していると思います。むしろ、日本社会の抱えている問題ともリンクしているといえると思います。

例えば、県外避難者の方の言葉からでも、「(夫は)失業手当が切れたのに、生活はそのまま」「給付金が入ると、その足でパチンコに行く」「(夫は)愛知県では仕事がないので、東北に帰っている。母子だけで(ここに)住んでいる」など。

また、「被災地」「被災者」との言葉を嫌う「被災者」も増えてきています。支援する側も意識を変えるとき。自分たち(支援者)の抱える問題とリンクする、繋がる問題であるとの認識を深めるとき、かなと思っています。つまり、「現地の抱える問題」を日本社会の抱える問題「生きづらさ」とか、自分たちの抱える問題として考えることでしょうか。

K: ポーポキの「友情物語」も、時間や場所を越えてお互いがつながって支えあっていく、ということを大事にしていると思います。「被災者」あるいは「被災地の問題」と捉えるのではなく、自分のつながりの中で共感したり問題を捉えたときに、新しいつながりや支えあいとなるのかもしれませんが。鈴木さんのお話をきいて、そのように感じました。

K: 活動を通じて、鈴木さんが大事だと思われることは何でしょうか？

S: 例えば、海外の難民支援で重要となるのが、「女性の自立」。男性は、職を探すために家庭を顧みない。しかし、物資が届いたり支援がきたり、時間の余裕ができて家庭を顧みない。結局、女性が子どもや老人の世話をして、負担を一手に引き受けることになる。

日本とは文化もそして被災者支援とは状況異なりますが、この難民支援のポイントは学ぶものがあると思います。ジェンダーの視点など、様々な視点に立って「弱い」とされている人に気付くことが大事だと思っています。

K: 今回は、鈴木さんのお話を伺い、被災者の方々が抱える日々の切実な問題を知ることができました。また、あらゆる世代、あらゆる方々が活動に関わっている印象を受けました。あらためて、いろいろな人が関わるのが、結果的に多様なニーズに応えることにもつながり、深みのある活動ができるのだと思いました。個人的には、去年の神戸の報告会でのつながりが、活動としてもできているということがとても嬉しかったです。





交流会でボランティアのメンバーと。左前が鈴木さん。



県外避難者の子どもたちとダンス！
まるまるもりもり～



有機農業に携わる母親グループのワークショ
ップ風景。宮城県大川原町



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 46

今月のポガのテーマはバランスです。癒されるといいね。



1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
 2. さて、まずは立って、大きく伸び、ストレッチしましょう！
 3. 次に、今度は、右足で立って、左足を右手で持つ。そして、左手としっぽを高く伸ばして、バランスをとりましょう。
 4. では、足も手も入れて変えてみて…！
 5. できた！できたポーズをどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポーキ会 4. 24(火) 神戸 YMCA 306 号室 19:00~20:50

- 4. 13 ポーポキ in ピッツバーグ ピッツバーグ大学で「ポーポキ友情物語」プロジェクトについての研究報告！
- 4. 19 神戸大学新入生歓迎セミナー ポーポキと一緒にボランティア!?! 17:30-19:00
- 4. 21 「ポーポキ友情物語」プロジェクトについての研究報告！ 神戸大学都市安全研究センター主催 14:00 - 17:00
- 5. 12 ポーポキ at 畿央大学 <奈良> 9:00-12:10
- 5. 26 ぽちぽちの会でポーポキ (ロニーの講演) 大阪 18:00~
- 6. 3 灘チャレンジ (予定)
- 6. 9 ポーポキ at 子どもの里 (予定)
- 7. 7 HIV/AIDS イベント
- 11 月 「平和と健康」 兵庫医療大学



ポーポキ in メディア

ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 「布に希望 60 メートル」 阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29 面)
- 「平和祈る声まとめ本に」 斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22 面)
- K. Wada. "Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?" *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. "The Art of Healing"(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) "The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なにに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑤(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 'Heart Lines' 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- "Human Rights, Popoki and Bare Life." *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代「ポーポキ、平和って、なにに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なにに色?』」「私のいち押し」 奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」 朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて～人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介: 『ポーポキ、友情って、なにに色? ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなにに色?」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなにに色?」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介していただきました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8. 10 面
- 「社説 終戦の日」神戸新聞 2008. 8. 15
- 中国新聞「核廃絶への視点」 2008. 7. 27 (核抑止論について……。3時間!?!にわたる取材で一生懸命にポーポキのことを話したのに……。





私にとってのポーポキ



文:Sok Say

訳: 有山哲・多田茉莉絵・吉岩正人

2011年3月11日、津波が日本を襲ったとき、私は日本で学生をしているRosaさんと一緒に、博士課程のフィールドワーク調査で、バタンボンというカンボジアの中心部から遠く離れている州に来ていました。私たちはホテルの部屋に着き、BBC やCNN にて日本の災害の状況を知りました。私の妻は、その後少ししてから私に電話をしてくれ、日本に津波がきたということを教えてくれました。そのときの気持ちはショックと動揺、不安でした。その後数週間の間は、私たち



ちは夜遅くまでテレビを見て、日本で起こっている事の経緯を追っていました。そして、原子炉のことを知ったときは、どうか無事にいくようにと思っていました。ただし、その影響が私たちの考えるほど悪くならなかったことは不幸中の幸いでした。

私が日本の地に足を踏み入れたのは2003年の10月6日です。そのときの私は完全に異国の人間でした。けれども、2005年の9月後半に日本を離れてからは、私は常に日本のことを恋しく思っていました。それは今でも同じです。日本のことがなつかしくて、私はしばしば妻と日本で留学生としての生活がどのようなものだったか、自分が日本を、そして日本人をどのように見ていたか、よく話をしたものでした。他にも将来的に行きたいと思っている日本への旅行についてのことや、日本の中でも最も大好きな神戸についての話なんかも。日本とのつながり、郷愁、そんな思いが私の中にはありました。しかし、震災が起きてからは、実際はもっと深いつながりを自分がこの島に感じているのだと思い始めました。今まで、遠くの地で起こっている悲惨な出来事をテレビで見たとき、私はその被害を懸念し、常にみんなの無事を祈りました。しかし、テレビで日本での津波の様子を見たときは、私はその出来事と自分の直接的なつながりを感じました。それはまるで自分がかつて住み、故郷と呼んでいた地で、自分が知り、関わっていた人に生じたかのように感じたのです。2009年のはじめ、私がオーストラリアではじめて博士後期課程の指導教員と出会ったとき、彼は私が新しい故郷をもったこと、つまりオーストラリアが私にとってもう一つの故郷となったことを祝福してくれました。彼は私にとってカンボジアは第一の故郷、日本が第二の故郷、そしてオーストラリアは第三の故郷だと言うのです。私は単純に笑みがこぼれました。私の気持ちを日本へより引き寄せたのはまさしくこの悲惨な出来事でした。そして、もちろん、そこはまぎれもなく私の第二の故郷でした。

2011年3月21日、フィールドワークの地からプノンペンへと帰ってきたRosaと私は、哀悼の意を伝えるべく、少しの花と義援金をもってカンボジアにある日本大使館へ訪問しました。すると、なんとそこでは多くの人々が哀悼の意を伝えようと列を作っていたのです。私たちはびっくりしました。そこにいる人々のうち、何人かの人は布の包みや箱を、そして多くの人々が花束を、そして全ての人々が多かれ少なかれ義援金を持っていました。「日本はたくさんのことで私たちを助けてくれた。だから、今こそ私たちが日本を支援し、恩返しをするときだ。」多くの人々がそんなことを言っているのが耳に入ってきました。おそらく、私たちを最も驚かせたのは、多くの高校生がそれらの集団の中で同じように哀悼の意を伝え、少しばかりの義援金も出していたことです。おそらく、彼らは日本に一度も行ったことはないでしょう。しかし、これ以上ないほどの日本、そして日本人とのつながりを彼らは見せつけてくれました。アレキサンダー教授は新しい本の中でこんなことを言っていました。「つながり。それは心から始まること。」¹大使館に来ていた人々の多くは日本に行ったことがありません。しかし、彼らには心があります。そして、日本の人々とつながるにはそれだけで十分なのです。そして、つながりは必ず安心、希望、歓喜、友情、強さ、そして積極的平和を生み出します。

日本におられるみなさん、私たちは日本と被災された方々の幸せをお祈りしています。粘り強い者として、みなさんはまたすぐに立ちあがり、力強く自分たちの足で立つことでしょう。また復興への道のりにおいて万事がうまくいくよう祈っています。最後に人とのつながりを促し、またこの立ち直り過程におけるポーポキの活躍をお祈りしています。



¹ ロニー・アレキサンダー 『ポーポキ友情物語』 P.28。

さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行します。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なりたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の蘭をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一円 1500 円 何円でも結構です。

